

大英図書館所蔵のバーニー・コレクションと同時代の関連刊行物、
約1,200 タイトルを掲載

The TATTLE R.

By Isaac Bickerstaff Esq;

Quicquid agunt Homines nostri Farrago Libelli.

From Tuesday May 10. to Thursday May 12. 1709.

Seventeenth and Eighteenth Century Burney Newspapers Collection Parts I and II

近世英国研究に不可欠な研究リソース「バーニー新聞コレクション」を電子化

小社は初期英語刊行物(新聞、パンフレット、定期刊行物、ブロードサイド等)を集めたコレクションとして長く利用されてきた大英図書館のバーニー新聞コレクション(Burney Collection)を電子化したアーカイブ(Seventeenth and Eighteenth Century Burney Newspapers Collection)を2007年にリリースしました。1,071タイトル(約91万ページ)を電子化し全文検索機能を実装したことにより、バーニー・コレクションの利便性は飛躍的に高まり、今では近世英国研究の不可欠の研究リソースとして広く利用されています。バーニー・コレクションはチャールズ・バーニー(Charles Burney, 1757-1817)が蒐集し、大英博物館に寄贈されたものですが、バーニーは蒐集資料を使って研究するための利便性を考え、タイトル単位ではなく刊行日単位で整理し、同じ刊行日の複数の新聞をまとめ、年単位で製本保存していました。発行点数が多い18世紀後半の新聞については、特定の年の新聞は数巻の製本に及びました。マイクロフィルム版もバーニーの時系列保存法に応じて配列されたため、タイトル単位での利用が容易ではありませんでしたが、本アーカイブはこの欠点を克服し、タイトル単位での検索・閲覧を可能にしたほか、全文検索も可能にしたことで、初期英国新聞の研究に大いに寄与しました。

バーニー蒐集のパートI未収録刊行物と同時代の刊行物を追加収録

しかし、大英図書館によるその後の調査により、このアーカイブがバーニー蒐集の新聞を網羅したものではないことが明らかになりました。こうして未収録部分を追加すべく、この度パートIIを刊行する運びとなりました。パートIIは2007年刊行分(パートI)に未収録のタイトルや号を収録しますが【'Missing' Burney】、これに加えて同時代の刊行物も収録されます【'Additional' Burney】。これは、バーニーが蒐集したものではないものの、バーニー・コレクションとしても違和感のない刊行物として、大英図書館において'Burney, Add'の書架記号が付されたものです。パートIIはタイトル数で254タイトル(このうちパートI未収録タイトルは97タイトル)、ページ数で約32,000ページです。パートIはマイクロフィルムをスキャニングし白黒画像での提供ですが、パートIIでは原本をスキャニングしフルカラーでお届けします。パートI未収録のバーニー蒐集の刊行物と同時代の刊行物を追加収録することにより、近世英国研究の研究リソースとしてのバーニー・コレクションの重要性は一層高まります。

世界最大規模の新聞所蔵機関、大英図書館の新聞コレクションの礎を築いたバーニー・コレクション

チャールズ・バーニーは同名の音楽学者を父にもち、作家フランシス・バーニーを姉にもち、学校の教員、校長として教育に携わる傍ら、在野の学者として、ギリシア・ローマの古典やイギリス演劇の研究に従事、自身の研究用資料として、古典作家の刊本やイギリス演劇史等の資料の収集に努めました。特に収集に熱意を注いだのが近代イギリス定期刊行物で、バーニーの死後、その定期刊行物コレクションの資料的価値を認めたイギリス庶民院はコレクションを買い取り、大英博物館に寄贈します。バーニー・コレクションは現在では、大英図書館が収蔵する膨大な初期英語刊行物の中核をなすのみならず、17世紀、18世紀の新聞コレクションでは世界最大規模のコレクションとして、世界の研究者にその名を知られています。

近世イギリスジャーナリズムの歴史

本アーカイブに収録される最初期の刊行物は、コラントと呼ばれる1620年代の冊子形式のニューズブックです。その後、内乱期には議会派と王党派の対立が紙の戦争としてメディアの場に持ち込まれ、党派的色彩を帯びたニューズブックの刊行が相次ぎます。王政復古期には一枚の紙に印刷されニューズペーパーが現れます。最初のニューズペーパーと言われる『ロンドン・ガゼット』は官報の性格を帯びていました。名誉革命を経て、17世紀末に出版検閲法が失効すると、多くの定期刊行物が創刊され、定期刊行物はコーヒーハウスやクラブとともに情報が流通、消費されるメディア環境の形成を促します。政府批判を行なう新聞も現われ、統制を行なう政府と報道の自由を求める新聞が対峙するという構図が生まれます。新聞の発行を継続するために広告収入に依存するようになったのも18世紀であり、広告専門紙が登場します。18世紀後半には政府と新聞の先鋭化した対立を経て、議会をめぐる報道規制が緩和され、議会の審議が新聞の新しいコンテンツとして関心を集めます。18世紀後半には議会の審議、一般記事、社説、投書、文芸記事、広告をカバーし、現代の新聞に近い体裁をもちます。本アーカイブは、ニューズブック、ブロードサイド、パンフレット、官報、文芸紙、論評紙、広告紙等から18世紀後半の日刊紙まで、約1,200タイトルの刊行物を通して、200年間に及ぶ近世イギリスジャーナリズムの歴史を辿るものです。

Seventeenth and Eighteenth Century Nichols Newspapers Collection

近世イギリス定期刊行物コレクションとしてバーニー・コレクションと双璧をなすのが、オックスフォード大学ボードリアン図書館所蔵のニコルズ・コレクションです。ニコルズ・コレクションもアーカイブ化されています。詳しくはお問い合わせ下さい。

Seventeenth and Eighteenth Century Burney Newspapers Collection

主な収録紙

時代区分はデータベースの構成とは関わりありません。＜＞内の年代は収録年ですが、収録されていない年や号がある場合があります。

1621-1662

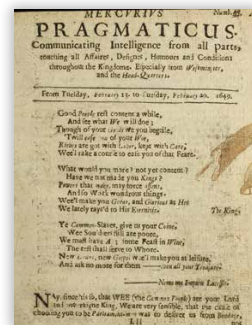
イギリスの新聞の起源とされるニューズブックが誕生。内乱期には議会派と王党派がニューズブックを発行して対立した。

パートⅠ

- Weekly News, 1622 < 1622 > 本コレクションに収録される最初期の「新聞」。冊子であるためニューズブック、あるいはフランス語由来のコラントと呼ばれた。国内のニュースは禁じられていたため、30年戦争など外国の記事が中心。イギリスの新聞の起源。
- Heads of Sevrall Proceedings in this Present Parliament < 1640-1642 > 内乱期、出版規制が無視され、初めて国内ニュースを伝えたニューズブック。
- Perfect Diurnall of the Passages in Parliament (1642: Coles) < 1642-1643 > "Heads of Sevrall Proceedings"の紙名を変更。イギリス最初のジャーナリスト、サミュエル・ベックが編集。
- Mercurius Aulicus (1643: London) < 1643-1644 > 王党派。ニュースに党派的コメントを加える。ジョン・バーゲンヘッドが創刊。
- Mercurius Britanicus Communicating the Affaires of Great Britaine < 1643-1646 > Mercurius Aulicus に対抗し議会派が発行。トマス・

オードリーが創刊。

- Mercurius Pragmaticus (1647) < 1647-1649 > 王党派。マーチャモント・ニードラムが王党派に転じて編集に関わる。
- Mercurius Politicus Comprising the Summ of All Intelligence < 1650-1660 > 王党派の敗北後、マーチャモント・ニードラムが再度、反王党派に転じて発行。一時期ミルトンが編集に関わる。
- Publick Intelligencer (1655) < 1655-1660 > マーチャモント・ニードラムが編集。議会派。
- Parliamentary Intelligencer < 1660 > / Kingdomes Intelligencer < 1660-1663 > 公認新聞発行人の地位をニードラムから継承したヘンリー・マディマンが創刊。王政復古後に紙名を変更。



パートⅡ

◆パートⅠ収録タイトルの追加分

- Mercurius Politicus Comprising the Summ of All Intelligence < 1659 >
- Mercurius Pragmaticus (1647) < 1649 >
- Parliamentary Intelligencer < 1659-60 >
- Perfect Diurnall of the Passages in Parliament (1642: Coles) < 1642-43 >
- Publick Intelligencer (1655) < 1659-60 >

◆パートⅠ未収録タイトル

- An Exact Diurnall faithfully communicating the most remarkable proceedings in both Houses of Parliament < 1644 >
- Mercurius Aulico-Mastix, or the Whipping-Mercury < 1644 >

- Mercurius Britanicus Alive Again: shewing the Distempers of these Times < 1648 >
- Mercurius Britanicus, representing the Affaires of Great Britaine to the City and Kingdome < 1647 >
- Mercurius Catholicus < 1648 >
- Mercurius Melancholicus Communicating the Generall Affaires of the Kingdome < 1649 >
- Mercurius Politicus, communicating the chief Transactions of, and Advertisements from the three Kingdomes < 1660 >
- The perfect diurnall of some passages in Parliament and proceedings of the armies in England, Scotland, and Ireland < 1659 >

1662-1695

王政復古後の1662年、出版検閲法の制定により、新聞は再び検閲下に置かれる。その一方で、現在の新聞の直接の起源であるニュースペーパーも現れる。

パートⅠ

- Intelligencer Published for the Satisfaction and Information of the People < 1663-1665 > 出版検閲官ロジャー・レストレンジが公認新聞発行人の地位をマディマンから継承し創刊。
- Newes Published for the Satisfaction and Information of the People < 1663-1665 > ロジャー・レストレンジが発行。
- Oxford Gazette < 1665-1666 > / London Gazette < 1666-1792 > 従来のニューズブック等の冊子形式ではなく一枚の紙に刷られたニュースペーパーで、イギリス最初の新聞と称される。主に政府

の布告を掲載し、官報の色彩が強い。

- Domestick Intelligence or News Both from City and Country < 1679-1681 > ベンジャミン・ハリスが発行。



パートⅡ

◆パートⅠ収録タイトルの追加分

- Intelligencer Published for the Satisfaction and Information of the People < 1665 >
 - London Gazette < 1672-1771 >
- #### ◆パートⅠ未収録タイトル
- A Catalogue of Books printed and published at London < 1671-98 >

- The Currant Intelligence < 1681 >
- Domestick intelligence: published gratis every Thursday for the promoting of trade < 1683 >
- The Domestick Intelligence; or, News both from City and Country impartially related < 1681-82 >
- Democritus ridens: or, Comus and Momus < 1681 >

Parts I and II

- The Mercury. From the Old Office at the North-West Corner of the Royal Exchange, London < 1678 >

- New Anti-Roman Pacquet: Or, Memoirs of Popes and Popery < 1680 >

1695-1712

検閲法失効後、定期刊行物の創刊が相次ぎ、コーヒーハウスなどを舞台に情報が流通し消費されるメディア環境が現れ、スティール、アディソン、スウィフト、デフォーら文人も定期刊行物で健筆を揮った。

パートI

- Flying-Post < 1695-1731 > / Post Boy < 1695-1728 > / Post-Man and the Historical Account < 1695-1729 >
上記3紙は出版検閲法廃止直後に発行された最も成功した新聞。
- Athenian Mercury < 1697 > ジョン・ダントン創刊。読者からの質問に答えるお悩み相談欄を取り入れた最初の新聞と言われる。
- Daily Courant < 1702-1735 > イギリス最初の日刊紙。
- Evening Post (1709) < 1710-1730 > イギリス最初の夕刊紙。
- Examiner (1710-1715) スウィフトが編集。
- Tatler (1709) < 1709-1711 > リチャード・スティール創刊。ニュース、政治から生活、都市風俗、道徳、文芸評、劇評、広告まで世万般を取り上げた。

パートII

◆ パートI 収録タイトルの追加分

- Athenian Mercury < 1691 >
- Daily Courant < 1708 >
- Dawk's News Letter < 1698-99 >
- Evening Post (1709) < 1710-16 >
- Examiner or Remarks upon Papers and Occurrences < 1710-11 >
- Flying Post < 1697-1727 >
- Observator (1702) < 1708-11 >
- Post Boy < 1696-1727 >
- Post Man and the Historical Account < 1698-1728 >

◆ パートI 未収録タイトル

- Foreign Post < 1697 >
- London Mercury, Published Weekly for the Promoting of Trade < 1695-1697 >

- Spectator (1711) < 1711-1712 > 18世紀を代表する雑誌。時評・文芸誌。『タトラー』廃刊後、スティールがジョセフ・アディソンと共同で創刊。
- Dawk's News Letter < 1699-1706 >
- Observator (1702) < 1702-12 > ジョン・タッチンが編集し、その死後、ジョージ・リッドパスに引き継がれる。一時期、デフォーも関わった。
- Examiner or Remarks upon Papers and Occurrences < 1710-15 > ヘンリー・セント・ジョン等により創刊された後、有力政治家ロバート・ハーレーの影響下に置かれたトーリー派の雑誌。一時期、スウィフトが精力的に寄稿した。

- The General Postscript < 1709 >
- The House and Land Brokers-Office < 1689-1701 >
- The Moderator (1705) < 1705 >
- The Poetical Courant < 1706 >
- The Scots Courant < 1710-13 >
- Tory Tatler < 1710 >



1712-1760

印紙税の課税が始まり、政府による新聞統制は新たな局面に入る一方、明確に反政府的スタンスを取る新聞も現れる。

パートI

- Whitehall Evening Post (1718) < 1718-1738 > / Daily Post < 1719-1746 > / Applebee's Original Weekly Journal < 1720-1736 >
デフォーが寄稿、もしくは編集に関わる。
- London Journal (1720) < 1720-1734 > / British Journal (1722-1731)
古代ローマの政治家の名前をペンネームにして政府の汚職や検閲復活の試みを批判した「カトーの手紙」を掲載。
- Mist's Weekly Journal < 1725-1728 > / Fog's Weekly Journal < 1728-1737 >
ジャコバイトのナサニエル・ミストが創刊。反ウォルポール政権の立場を強く押し出す。国内記事の比重を高め、下層階級の関心事を記事にするなど、読者層を拡大した。デフォーが寄稿。Fog's Weekly Journalはフランスに亡命したミストが創刊。
- London Evening Post < 1727-1799 > 1750年代前半の反ユダヤ人キャンペーンで有名。
- Country Journal or the Craftsman < 1727-1750 > ミスト亡命後にウォルポール政権と対峙した代表的な新聞。
- Grub Street Journal < 1730-1737 > 外国記事偏重の同時代の新聞に対して、国内記事を優先。
- Daily Advertiser < 1731-1796 > 広告専門紙として創刊されたが、

後にニュースも掲載した。

- Daily Gazetteer < 1735-1748 > ウォルポール政権の御用新聞。サミュエル・リチャードソン発行。
- Rambler < 1750-1752 > サミュエル・ジョンソンが発行。
- London Daily Advertiser < 1751-1753 > マルチな才人ジョン・ヒルのコラム "Inspector" が人気を博した。
- Covent-Garden Journal < 1752 > ヘンリー・フィールドینگが創刊。本誌を舞台にジョン・ヒルとの「紙の戦争」を演じた。
- London Chronicle < 1757-1800 > 新聞と文芸誌と書評誌を兼備。ジョンソンの著作を刊行したロバート・ドッズリーが関わり、ジョンソンお気に入りの新聞だった。
- London Gazetteer < 1748-52 > 広告専門紙。広告情報入手したコーヒーハウス名と所在地が欄外に記されている。
- General Evening Post < 1735-1800 >
- Lloyd's Evening Post < 1757-1804 > 紙名はロイズ・コーヒーハウスから取られた。編集長宛の手紙や広告等、ロイズ・コーヒーハウスに集まった情報を記事のソースとした。

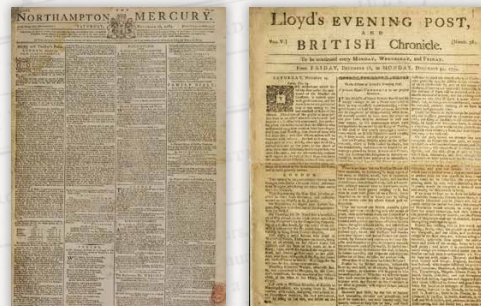
パートII

◆ パートI 収録タイトルの追加分

- Country Journal or The Craftsman < 1730 >
- Daily Advertiser < 1735-97 >
- Daily Post < 1733 >
- General Evening Post < 1735-99 >
- Lloyd's Evening Post < 1759-89 >
- London Chronicle < 1757-1803 >
- London Evening Post < 1781-93 >
- London Gazetteer < 1749 >
- Whitehall Evening Post (1718) < 1720-34 >

◆ パートI 未収録タイトル

- The Chester Weekly Journal < 1730 >
- The Edinburgh Evening Courant < 1745 >
- The Freeholder's Journal < 1720-22 >
- The London Spy or New Universal Weekly Journal < 1756 >
- The National Journal: or, The Country Gazette < 1746 >
- New England Weekly Journal < 1730 >
- Northampton Mercury < 1736-89 >
- The Weekly Intelligencer < 1736 >



1760-1800

議会の討議の報道をめぐる出版人と議会の確執を経て、報道規制が緩和され、議会の審議が新聞の新しいコンテンツとして関心を集める一方で、90年代にはフランス革命に対する賛否の立場を鮮明にした新聞が現れる。

パートI

- Public Advertiser < 1752-1793 > 政府を批判する匿名の手紙 "Letters of Junius" が人気を博した。1760年代の最重要日刊紙。
- St. James's Chronicle or the British Evening Post < 1761-1800 >
- North Briton (1762) < 1762-1764 > 国王の演説を批判し、文書扇動罪により創刊者ジョン・ウィルクスが逮捕された第45号が有名。
- Middlesex Journal < 1769-1784 > ウィリアム・ベックフォードら、ウィルクスの支持者が創刊。
- Morning Chronicle (1770) < 1770-1800 > 18世紀後半の代表的日刊紙。超人の記憶力の伝説で有名なウィリアム・ウッドフォールが創刊。1801年から1865年までは British Library Newspapers Part I に収録。
- Morning Post < 1770-1800 > 劇作家のヘンリー・ベイト・ダドリーが編集長。1801年から1900年までは British Library Newspapers Part II に収録。
- Morning Herald < 1780-1800 > フランスの英国侵攻が取り沙汰されていた頃、英国南部の海岸地図をフランスに渡したとリッチモンド公爵を誹謗する記事を Morning Post に掲載し、裁判に敗訴

したヘンリー・ベイト・ダドリーが Morning Post を離れ創刊。

- The World < 1787-1794 > 18世紀イギリスを代表する出版人、ジョン・ベルが発行。ロングエスを廃止した最初の新聞として有名。
- Oracle < 1789-1800 > The World を離れたジョン・ベルが創刊。創刊時の紙名は "The Oracle: Bell's New World"。劇作家のジェイムズ・ボーデンが編集長を務めた。
- Courier < 1792-1800 > フランス革命を支持。
- Sun < 1793-1800 > / True Briton (1793) < 1793-1800 > / Anti-Jacobin or Weekly Examiner < 1797-1798 >
上記3紙は1790年代に創刊されたフランス革命に反対の立場を取った代表的な新聞。
- Public Ledger < 1760-98 > "Daily Register of Commerce and Intelligence" が示す通り、通商関係の広告を掲載した。オリヴァー・ゴールドスミスが後に『世界市民』として刊行する記事「中国人からの手紙」を寄稿した。
- Whitehall Evening Post (1770) < 1746-1800 >

パートII

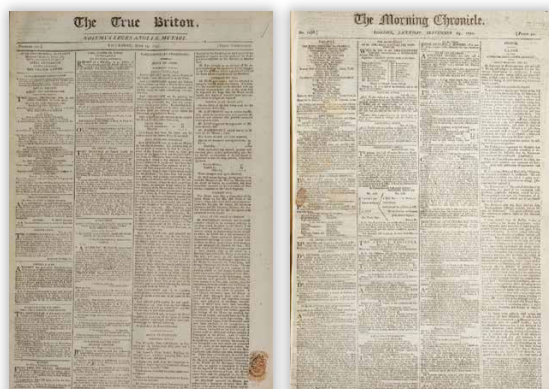
◆ パートI 収録タイトルの追加分

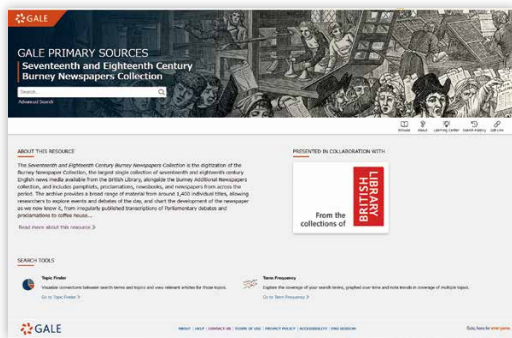
- Anti-Jacobin or Weekly Examiner < 1798 >
- Courier < 1793-1800 >
- Middlesex Journal < 1766-88 >
- Morning Chronicle < 1783-92 >
- Morning Herald < 1786-1801 >
- Morning Post < 1773-92 >
- Oracle < 1791-93 >
- Public Ledger < 1764-81 >
- St. James's Chronicle or the British Evening Post < 1722-99 >
- Sun < 1792-1808 >
- True Briton (1793) < 1793-94 >

◆ パートI 未収録タイトル

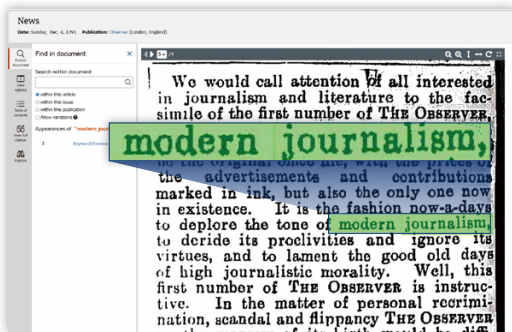
- Hue and cry, and Police Gazette < 1797-1825 >
- Public Hue-and-Cry; or General Preventive Plan < 1788-89 >
- Sunday Gazette and Weekly Monitor < 1782 >
- The Express and the London Herald < 1799 >
- The Old British Spy, and London weekly journal. < 1776-95 >

- The Public Hue and Cry; or, Sir J. Fielding's General Preventive Plan < 1773-76 >
- The Public Ledger, and Commercial and General Advertiser < 1800 >
- York Courant < 1780 >

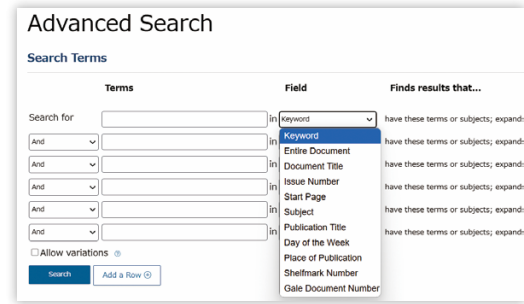




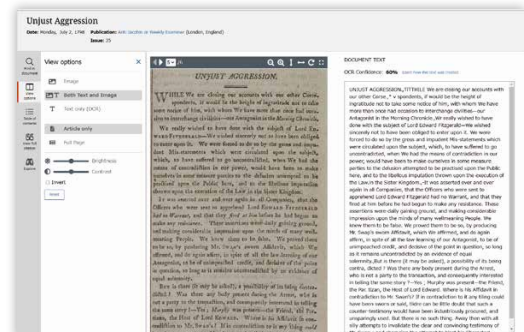
トップページ



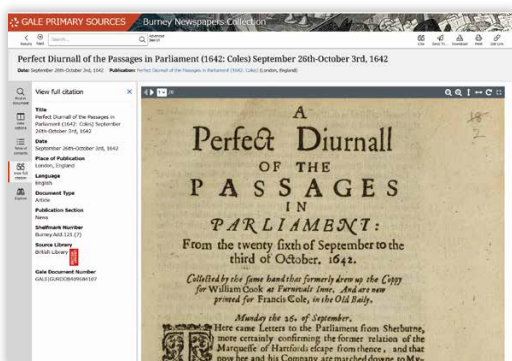
一字一句までフルテキスト検索。検索語はハイライト表示



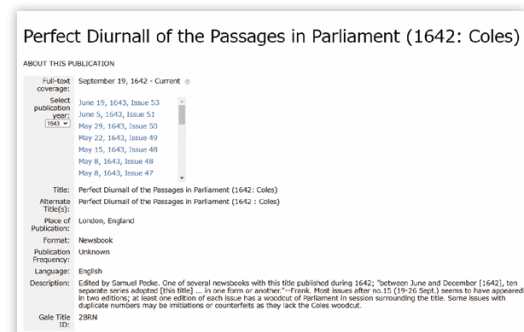
詳細検索では、文書タイトルや全文の他に大英図書館の書架番号 (Shelfmark Number) を検索範囲に指定することができます。



文書表示画面では、文書イメージと OCR テキストを左右見開きで表示することができます。



記事閲覧ページの書誌情報のタブではタイトル、発行日、号、発行地、言語、大英図書館書架番号の情報が確認できます。



タイトル紹介ページではタイトル毎に収録期間、発行地、刊行頻度、解題を掲載し、記事にハイパーリンクされています。

データベースの概要

- ◆ **収録資料**：新聞を中心とする定期刊行物
- ◆ **収録資料の規模**：約 1,200タイトル(パートI:1,071タイトル パートII:254タイトル)、約 94万ページ(パートI: 約91万ページ、パートII: 32,000ページ)
- ◆ **収録資料の期間**：1604年-1825年
- ◆ **言語**：英語、フランス語他
- ◆ **原資料所蔵機関**：大英図書館
- ◆ **機能**：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDFファイルのダウンロード、OCRテキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google／Microsoftログインとクラウド連携を実装、別契約の Gale Digital Scholar Lab でテキストマイニングでもご利用になれます。
- ◆ **横断検索**：統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では追加コストなしで導入済の Gale の買切データベースとの横断検索が可能



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける無料トライアルをご提供しております。
 商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社までお願いします。
 Tel : 03-3511-4390 E-mail : GaleJapan@cengage.com URL : www.gale.com/jp